

文献 13

辰見 康剛, 八板 昭仁, 栗谷 健礼, 土屋 裕睦. 円皮鍼およびプラセボ円皮鍼が夏季強化合宿期間における大学ラグビー選手の心理的コンディションに及ぼす影響. 理学療法科学. 2017; 32(6): 875-879.

1. 目的

円皮鍼およびプラセボ円皮鍼による施術が、夏季強化合宿期間における大学ラグビー選手の心理的コンディションに及ぼす影響を検証する。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験、クロスオーバー

3. セッティング

大学ラグビー部の夏季合宿期間（3泊4日）に大学合宿施設にて実施。

4. 参加者

大学男子ラグビー選手 103 名

5. 介入

Arm1（円皮鍼群 33 名）：円皮鍼（鍼体長 0.6mm）を左右神門穴（耳介部）に貼付。合宿初日練習前に貼付し、合宿 3 日目夜に抜去した。

Arm2（プラセボ群 38 名）：円皮鍼の針先部分を除去したプラセボ鍼を神門穴（耳介部）に貼付。左右合宿初日練習前に貼付し、合宿 3 日目夜に抜去した。

Arm3（コントロール群 32 名）：介入なし

6. 主なアウトカム評価項目

POMS 短縮版(左右合宿初日練習前、合宿 3 日目夜に測定)

7. 主な結果

- 1) T-A（緊張-不安）得点は、評価時期（ $F(1, 00) = 6.71, p = 0.011$ ）に有意な主効果は認められたが、有意な介入条件の主効果（ $F(2, 00) = 1.08, p = 0.34$ ）および交互作用（ $F(2, 00) = 1.75, p = 0.46$ ）は認められなかった。
- 2) F（疲労）得点は、評価時期（ $F(1, 00) = 10.65, p = 0.002$ ）に有意な主効果は認められたが、有意な介入条件の主効果（ $F(2, 00) = 0.18, p = 0.84$ ）および交互作用（ $F(2, 00) = 1.97, p = 0.15$ ）は認められなかった。

8. 結論

円皮鍼およびプラセボ円皮鍼による神門穴への施術は、心理的コンディショニングに影響を及ぼさないことが示唆された。

9. 論文中の安全性評価

有害事象の発生なし

10. Abstractor のコメント

ラグビー選手の強化合宿期間中の心理的コンディションに着目し、神門穴のみに円皮鍼またはプラセボ円皮鍼を貼付し、検証した研究である。耳鍼の臨床効果については、減量や鎮痛などに利用されているが、一致した見解が得られていない。また、円皮鍼に関する研究では、複数の部位に貼付する研究が多い。そのため、心理的コンディションに影響を及ぼす刺激部位や刺激量について吟味する必要があると考える。

11. Abstractor and date

玉地正則 2021. 1. 1